

真萱区報 第25-4号(26年1月)

[真萱自治会は、活動を通じ住民同士の良好な人間関係を築くことを目指します]

発行責任者：真萱自治会長 平山郁夫

1. 平山自治会長挨拶

新年を迎え、皆様ご健勝の事とお喜び申し上げます。

自治会長を仰せつかり間もなく任期の2年を終え、改選の時期を迎えます。

この2年間に振り返りますと、皆様のご協力で曳山小屋の新築移転も完了しました。また、道路拡幅等の主要整備事業も26年度には終了する見込みです。

又、行事を通しての住民交流も、少しずつではありますが進展していると思います。

昨年、真萱自治会が24年度大分市の「協働のまちづくり大賞」を受賞し、12月には佐世保市の自治会関係者12名が研修に訪れ、真萱自治会の防災活動等を説明しました。又、2月には久留米市の自治会関係者との意見交換会が予定されています。

今後の真萱自治会は、地域整備等のハード的なものから、行事等を通じた住民交流を主体に取り組む時期になりつつあると思っています。

来年度の執行体制がまだどうなるか分かりませんが、①自治会情報を皆さんにお知らせし ②皆さんの意見を聞き ③自治会が迅速に対応する。この繰り返しで居心地の良い真萱をつくっていくと信じています。引き続き皆様がたのご協力をお願い申し上げます。

2. 公民館への太陽光発電設備の設置について

区報第25-3号で予備検討の結果をお知らせしましたが、その後更に詳細検討を行い、役員会で審議してきました。その経緯と概要をお知らせします。

(1) 検討経緯

昨年総会でエコの時代を迎え、真萱公民館に太陽光発電装置を設置してはどうかとの提案がありました。

(2) 予備検討実施(大分ビルダー見積、及び役員会での検討)

- ・設備本体の設置に550万円程度、九電等関連費用を含めると概ね600万円程度かかる。
- ・発電した電力は九電に売電し、年間60万円程度の収入が見込まれる。
- ・初期投資を回収するには10年程度を要する。それ以降の売電費は自治会収入となる。
- ・メリットのみではなく、デメリットも考慮して採否を決定する必要がある。
- ・既に公民館等に設置している庄内町鳴沢地区への聞き取りを行い、経緯や実態を把握する。
- ・複数の施行業者に見積を依頼し設置費の妥当性を検証する。

(3) 詳細検討

① 鳴沢地区への聞き取り

- ・高齢化が進む中で、区費以外の自治会収入を得ることが大事と考え地区で取り組むこととした。
- ・最初は「パネルが重くて屋根が傷むのではないか」「10年後の活動費というかなり先の話になる」という意見も出たが、勉強会を重ねていくうちに、環境に良く、子孫のためにもなるということで皆さん快諾をしてくださいました。
- ・平成23年に公民館の屋根に太陽光パネルを設置したことにより、公民館の維持管理費も賄うことができるようになった。

② 設置費の把握(ワコーエンジニアリング、鬼塚電気、河野電気に見積依頼)

- ・施行会社、使用ソーラー(メーカー)によって初期投資は異なるが概ね600~1000万円程度。
- ・初期投資費用を回収するには、各社とも9~10年で大きな差はない。

③ 拡大役員会での審議

- ・「ワコーエンジニアリング」「鬼塚電気」「河野電気」の見積では、「ワコーエンジニアリング」の設置費が最も安価(シャープ540万円：東芝630万円)であった(施行業者の比較)。
- ・「パナソニック」「シャープ」「東芝」の製品比較では、初期投資の回収年数(9~10年)では大差がなかったが、メーカー補償期間では東芝が20年間と最も長い(ソーラーメーカーの比較)。
- ・今回の発電容量は15KW程度(10KW以上)なので20年間、37.8円/KWで九電が買い取ること(一般家庭の5KW以下は10年間、38円/KW)になり、初期投資は10年程度で回収できるとの試算から、その後の10年間は自治会収入として、年間60万円程度が見込める。

・公民館は自家消費割合が一般家庭に比べ少ないので、発電量の大部分が売電にまわると予測される。

(役員の見解)

- ・現在公民館の維持には年間 33 万円程度（共済 23 万円、電気、ガス、水道等の経費 10 万円）掛かっており、これらも考慮し採否の判断が必要である。
- ・太陽発電設備をつければ、自治会収入が期待される。
- ・将来、売電単価が安くなる、又は買い取り制度自体が無くなる可能性があるのではないか。
- ・自治会が営利目的の事業をしてもいいのか。
- ・地球環境保全（エコ）も設置の大きな理由である。
- ・総会前に住民説明会を開催してほしい。

(4) 今後の進め方

・2月15日（土）に「太陽光発電に関する説明会」を開催し、理解度を深めたいうえで、今後の対応を決めることとします。

3. 行事報告

(1) 校区混合ミニバレーボール大会(11月17日)

真萱は18名が出場し、13チーム中3位と健闘しました（優勝は京が丘）。

(2) 真萱グランドゴルフ大会(11月24日)

グランドゴルフは、子供から年配者までが気軽に参加でき、住民同士の親睦と健康推進が図れることから、今回、初めて真萱自治会主催の大会を開催しました。

19名が参加し、優勝は平山貞儀氏（向原）、
2位工藤賢一氏（芝尾）、3位伊藤盛男氏（真萱）でした。

(3) 天満社霜月祭(11月25日)

23名の方々が参列し、神事の後公民館で直会を行いました（賄いは片峰1班）。

(4) 校区新春グランドゴルフ大会(1月19日)

松岡で最も多い4チーム、20名が参加し、和気藹々の中で皆さんプレーを楽しんでいました。

ミニバレー選手



4. 防災会からのお願い

災害には地震、火災、津波、浸水、土砂災害等がありますが、真萱で最も懸念されるものは、地震災害です。大分市では、東南海地震（30年以内発生確率60%）の際に震度6弱、別府湾から三佐方面に抜ける断層地震では震度7が想定されています。

自分の家がどの位の地震に耐えるかは、耐震診断を受けなければ解りませんが、おおまかには、昭和56年以前（耐震基準改定前）の家は震度5程度には耐える、それ以降に新設された家は、震度6強以上地震でも倒れないと言われていました。

阪神・淡路大地震では、昭和56年以前の家は30%弱が大破以上の被害を受けたことに対し、昭和56年以降の家は、数%とどまっていた。

家の耐震化は費用を伴い難しい面がありますが、寝室には大きな家具を置かないことや、家具を固定するなど比較的簡単に出来る対応は取っておきましょう。

5. 今後の予定

- 2月9日（日）：校区ボーリング大会 16時30分～
- 2月15日（土）：太陽光発電説明会 19時～
- 2月23日（日）：片峰3班公民館掃除、班会議
- 3月10日（月）：金毘羅様祭り 10時～
- 3月23日（日）：クシヤ公民館掃除、班会議
- 3月30日（日）：総会、防災訓練 13時～

*物故者（11月～1月）高橋直（12月向原）上野香澄（12月片峰3班）野崎チヨ（1月片峰3班）

以上